

2020 年
1 月号

DIYで広がる楽しい毎日・ 自分らしい暮らし。

北巽駅から5分ほど歩いた住宅街の中にある「Diy Studio 杭」。
木の観音扉を開けると、その名の通り、ずらりと工具が並ぶDIYの工房スペースが広がる。もう一つの扉は、2・3階に住むシェアハウスの住人たちのコミュニティスペースにつながっている。

この工房を運営するのは杭の代表の川村さん。東北の被災地で大工とともに家を補修する作業に携わった。それが、本格的に内装・DIYを手掛けるようになったきっかけなのだそう。3年前、「シェアハウス一棟をリノベしてみないか」と、東北のボランティア時代の友人からの誘いがあった。この建物のオーナーであったその友人と、もう一人の友と一緒に、この場所を作り上げた。



大学卒業後、海外を周る中、地元で起きた震災について改めて考え、帰国後被災地での活動に携わりました。

築40年を超える4階建てのビル。ガレージだった部分をDIY工房にリノベーション。様々な機材や工具が美しく並べられている。「ここで、なんでも作れる。」と川村さん。木製のアート作品、こども用の木のおもちゃ、組み立式の屋台やこたつなど、いろいろなものを見せてくれた。「廃材を使えば、安くて自分が欲しいものが作れる。」と楽しそうに話す。



2・3階部分のシェアハウスには、あえてまだ手を入れていない空き部屋がある。未来の入居者と共にリノベーションするためだ。4階の屋上は広々として、見晴らしがいい。



▲ 工房はレンタルもできる



▲ DIYが詰まったコミュニティスペース
奥には川村さんの居住スペースがある

竹林で竹を切る作業からスタートした巨大流しそうめん、工具の使い方から教える大きなウッドデッキづくり、こどもから大人まで一緒に楽しめるワークショップをここで開催してきた。

「何にもないところから一緒にやろう!」心からものづくりを楽しむ川村さんは、この場所からDIYに親しみ、自分らしく暮らす仲間が増えることを願っている。



▲ 「ウッドデッキづくり」の
ワークショップ

2020年
2月号

旅の拠点。出会いの拠点。

鶴橋駅から徒歩2分、路地を進むと現れる大きなガラス扉の建物は、昨年10月にオープンしたばかりのホステル兼カフェバーだ。スタッフもお客さんも国際色豊かで、生野にいなから異国にいるような感覚になれる。

かつてはバックパッカーで世界各地を転々としていたというオーナーの藤本亜里さん。結婚し、こどもも生まれ、旅に出ることが難しくなったそんな時、今度は旅人たちを受け入れる側に回してみようと思いたったところから生まれたこの場所。



▲ 藤本亜里さん

元々は住宅で倉庫だった1階部分は宿泊客以外も楽しめるカフェバーに、住居スペースだった2・3階は個室や相部屋からなるホステルに生まれ変わった。大掛かりな改修は工務店に依頼し、内装・インテリアは、亜里さんの希望を反映させながら、DIYが得意なご主人が手がけたという。



白とコンクリートと木で統一されたシンプルな空間でも、無機質に感じさせないのは、ガラス扉からの明るい日差しが随所に置かれたグリーンをさわやかに照らしているから。

天井を抜いて梁を見せ、広がりのある空間となった部屋が外国人客を迎える。外国人客にも使いやすい高さの共有キッチン、広い脱衣所の奥には清潔感あふれるシャワールーム。宿泊者としての亜里さんの海外経験が、快適な空間に活かされている。



▲ リラックスできる宿泊スペース

予定よりも早く営業認可が下り、オープン準備を最優先で行ったため、リノベーションはまだま道半ばという。今計画中なのは、カフェバーの壁面装飾。アーティストの方にペイントをしてもらえたらと考えているそうだ。来るたびに変わるお店の表情を見るのも楽しみになるかもしれない。

せっかく色々な国の人が集まる場所だからと、ネイティブのスタッフと触れ合える子ども向けの英会話教室も試験的に行った。今後は、もっとお店を知ってもらって、地域の人や外国人の交流の場にできたらと話す。HIPPO(ヒッポ)の旅はこれから始まる…



▲ カバが好きで店名に“HIPPO”と付けたそう。見た目が可愛いのに、実はとっても強いというギャップが好きなのだとか。店内にはカバグッズがたくさん！

2020年
3月号

お気に入りの一脚を、素敵な空間で。

巽公園から500mほど南へ下ったところにある「椅子屋Sheep(シープ)」。田中一貴さんが、兄の琢己さん、妻の綾子さんと共に経営するお店だ。一貴さんと琢己さんが椅子の張り替えや、オリジナルソファの製作を担っている。1階が工房、2階がソファや椅子のショールーム、3階が居住空間となっている。

昔から家具やインテリアが好きで、家具の販売店などで働いてきた一貴さん。椅子張りの仕事に興味を持ち、工房で修行したのち独立した。区内の別の場所で店を構えていたが、手狭になり新たな場所を求めていたところ、この物件に巡り合ったのが4年前のこと。もともとは照明を取り扱うお店で、1階が駐車場、2階が販売スペース、3階が事務所だった。



▲ 田中さん夫妻と息子さん。
1階の工房にて。



▲ 2階のショールーム。
たくさんのソファや椅子が並び、
見ているだけでも楽しい。

主なりノベーションは、3階の事務所を田中さん夫妻と1歳の息子さんの生活空間に変更したこと。壁や床を塗り替え、キッチンと風呂を設けた。空間を間仕切るためのカーテンやパーテーション、大きなソファは一貴さんのお手製。テレビ台も、木の上からクッション材をつめて布張りした。子どもが頭をぶつけても安心だ。布張りの技術が部屋の随所に活かされている。



▲ 店内では綾子さん手作りの
雑貨も販売している。



▲ 入口はシャッターを取り外して
温かみのある木製の引き戸に
変更。

オーダーメイドソファは、座り心地や生地、大きさなど、お客さんのニーズを聞き取り、一から形づくっていく。その工程がとても楽しいと話す一貴さん。今は、家具屋や工務店からの依頼がほとんどだが、個人からの依頼も歓迎なのだそう。いろんな人に来てほしいとの思いから、椅子作りや端切れを使った小物作りのワークショップも計画中。お気に入りの一脚を探しに、ふらっと寄ってみてはいかがだろうか。



▲ ソファ&オットマン
なんと子ども用！